



University of Kelaniya – Sri Lanka

*Centre for Distance and Continuing Education*

Bachelor of Arts (General) Degree Second Examination (External) – 2013/14

2017 April – June

Faculty of Humanities

Japanese - JAPA- E 2025

(Old Syllabus – Registered year 2007- 2011)

Comprehension, Composition and Translation

Answer all questions.

No. of questions : 04

Time : 03 Hours

【1】 次の文章を読んで、質問に答えなさい。(25 点)

私達の生活せいかつになくなくてはならない火は、どのようにして発明はつめいされたのでしょうか。

今から何万年も前の人々ひとびとは、火を使うことを知りませんでした。

\_\_\_\_\_ A \_\_\_\_\_、火山が火をふいたり、雷かみなりが落ちて木が燃えたりするのを見て、ただおどろいたり、おそれたり、不思議ふしぎがったり、していました。

ある時、大風おおかぜで深い山ふかの木と木がはげしくすれ合ったために、火が出て、山火事になったことがありました。森のけものはその火をおそれてどンドンにげだしました。それを見ていた人々は、火を使って、けものを追おいはらうことを考えつきました。

それまで、人々は夜になると、けものをおそれて、真まっ暗くらなほら穴あなの中に隠かくれていました。ためしに、山火事やまかじの焼けあとから残り火のこを持ってきて、ほら穴あなの入口あなに置いてみました。すると、けものは近くに來ないだけでなく、中も明るくて、大變便利たいへんべんりなことが分かりました。

\_\_\_\_\_ B \_\_\_\_\_、火が消えると、人々は火を探さがしに行かなくてはなりません。また、火をたやさないようにするためいつも火の番ばんをして行かなければなりません。それは、なかなか大變たいへんなことです。

\_\_\_\_\_C\_\_\_\_\_ 人々は、自分たちで火を作る方法<sup>ほうほう</sup>を考えました。そして大風<sup>おおかぜ</sup>で木がすれ合<sup>あ</sup>って火が出たのを思い出して、木の枝<sup>えだ</sup>を強くすり合わせてみました。すると思<sup>おも</sup>ったとお<sup>お</sup>り、火が出る<sup>でる</sup>ことが分かりました。

\_\_\_\_\_D\_\_\_\_\_、人々は平たい木切れ<sup>ひら きぎ</sup>の上<sup>うへ</sup>で細かい木<sup>こま</sup>の棒<sup>ぼう</sup>をきりのようにもんで、火を出す<sup>はなす</sup>ことを発明<sup>はつめい</sup>しました。火を出す棒<sup>ぼう</sup>にはかたい木<sup>き</sup>を使<sup>つか</sup>いました。この木は、木の中<sup>なか</sup>では油<sup>あぶら</sup>が多くて、火を出しやす<sup>やす</sup>いからです。

山火事<sup>さんかじ</sup>から火を作る棒<sup>ぼう</sup>を考え<sup>かんが</sup>ついた人々は、その後しばらくして、石と石を打ち合<sup>あ</sup>わせて火を出す<sup>はなす</sup>ことを考え<sup>かんが</sup>えました。

\_\_\_\_\_E\_\_\_\_\_、けものをねら<sup>ねら</sup>って石<sup>いし</sup>を投げ<sup>な</sup>つけました。その石のねらいがはずれて、かたい岩<sup>いわ</sup>にぶつ<sup>ぶつ</sup>かるとぱつと火花<sup>ひかり</sup>を出<sup>だ</sup>しました。これを見た人々は、石と石とを打<sup>う</sup>ち合<sup>あ</sup>わせて火<sup>ひ</sup>を出<sup>だ</sup>す火打ち石<sup>ひうちいし</sup>を発明<sup>はつめい</sup>しました。

木<sup>き</sup>の棒<sup>ぼう</sup>や石<sup>いし</sup>で出した火<sup>ひ</sup>は、燃えやす<sup>やす</sup>い、かわいたこけやす<sup>やす</sup>ぎ皮<sup>かわ</sup>などにつけて使<sup>つか</sup>いました。

このようにして、火<sup>ひ</sup>を発明<sup>はつめい</sup>した人間<sup>にんげん</sup>は、他<sup>た</sup>の動物<sup>どうぶつ</sup>よりもずつと進<sup>すす</sup>んだ生活<sup>せいかつ</sup>をするようになりま<sup>な</sup>した。魚<sup>うい</sup>やけもの<sup>もの</sup>の肉<sup>にく</sup>も、にたり、焼<sup>や</sup>いたりして食<sup>く</sup>べるようになりま<sup>な</sup>した。やがて、鉄<sup>てつ</sup>や銅<sup>どう</sup>をと<sup>と</sup>かしてそれま<sup>ま</sup>でにな<sup>な</sup>か<sup>か</sup>った色<sup>いろ</sup>々な道具<sup>どうぐ</sup>を作<sup>つく</sup>り出<sup>だ</sup>すことも考<sup>かんが</sup>えられてきま<sup>ま</sup>した。

こうして、火<sup>ひ</sup>が発明<sup>はつめい</sup>されてから、世界<sup>せかい</sup>はど<sup>ど</sup>ん<sup>ど</sup>ん開<sup>ひら</sup>けてきま<sup>ま</sup>した。

① 本文の\_\_\_\_\_をシンハラ語・英語に訳しなさい。

---

---

---

---

---

---

---

---

② (A)、(B)、(C)、(D)、(E)、に入る<sup>ことば</sup>言葉はどれですか。正しい答えを a, b, c, d の中から選びなさい。

(A) (a) あそこで (b) これで (c) あれで (d) そこで

(B) (a) そして (b) しかし (c) ので (d) つまり

(C) (a) ここで (b) そこで (c) あれで (d) それで

(D) (a) このようにして (b) そんなようにして

(c) あのようにして (d) こんなようにして

(E) (a) ある日 (b) ある月 (c) ある年 (d) ある時間

③ 昔「火を使うこと」知らない人々は<sup>かみなり</sup>雷のことをどう思いましたか。

---

---

④ 火を持ってけものを<sup>お</sup>追いはらうことに考えついたきっかけは何ですか。

---

---

⑤ 火を使うことについて昔<sup>むかし</sup>の人にどんな問題がありましたか。

---

---

⑥ 昔の人はどのように火を作りましたか。二つの方法を書きなさい。

1. \_\_\_\_\_

2. \_\_\_\_\_

⑦ 火を<sup>はつめい</sup>発明した<sup>けっか</sup>結果、人の生活はどのように変わりましたか。

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

⑧ 以下の言葉の意味を説明しなさい。

1. ねらい \_\_\_\_\_

2. <sup>お</sup>追いはらう \_\_\_\_\_

3. たやす \_\_\_\_\_

4. すれ合う \_\_\_\_\_

5. ほら<sup>あな</sup>穴 \_\_\_\_\_

【2】 次の〔A〕と〔B〕の文章をシンハラ語・英語に訳しなさい。(25点)

目がさめるとすぐ飛び起きて、庭に出ました。

空は青く晴れていて、雲一つありません。朝日が庭いっぱいにしてあります。ゆうべの雨にぬれた木の葉が、きらきら光っています。本当に気持ちのいい朝です。

私はむねいっぱい朝のきれいな空気をすいながら、やわらかい土をふんで庭を歩きました。

向こうに見える森も林も家も朝日を受けて、かがやいています。どこからかラジオたいそうの音楽が聞こえてきます。

小鳥もうれしそうに鳴きながら、えだからえだに飛び移っています。池には水がいっぱいになっていて、金魚も気持ちよさそうに泳いでいます。

私はしばらく庭を散歩してから、部屋にもどって、朝ご飯まで新聞を読みました。

【3】 次の文章を日本語に訳しなさい (20 点)

ආහාර වේල යන්නට ජපන් වචනය "ගොහන්" ය. මේ වචනයේ නියම තේරුම "බත්" යන්න නමුත් එය කොතරම් වැදගත්ද කිවහොත් හැම ආහාරයකටම වාගේ මේ වචනය භාවිත කරයි. සාමාන්‍යයෙන් ජපන් කෑම වේලකටම තැම්බූ සුදු බත් සමඟ ප්‍රධාන වශයෙන් මස් හෝ මාළු හා මීට අමතරව පිසින ලද එළවළු හා මීසෝ නම් සුප් වර්ගයක් හා අව්වාරු මෙන් සැකසූ එළවළු අඩංගු වේ. බත් ඇලෙනසුලු නිසා "හෂි" වලින් කෑම පහසුය. බත් වලට අමතරව පාන්, නුඬුල්ස් හා පැස්ටා සමඟ විවිධ වර්ග වල මස්, මාළු, එළවළු සහ පලතුරු ආදිය ආදිය ආහාර වේලට එක්වේ. පිටරටවල ප්‍රචලිත සුෂි, තෙම්පුරා, සුකියකි වැනි ජපන් ආහාර වර්ග ජපානයේද ඉතා ජනප්‍රියය.

කෑමට පෙර ජපන් ජනයා "ඉතදකිමසු" යයි කියනු ලැබේ. "මේ කෑම පිළිගන්නවා" යන තේරුම ඇති මෙය, කෑම වේල සකස් කිරීමට එක් වූ සෑමට ස්තුති කිරීමකි. කෑමෙන් පසුවත් ඉතා හොඳ කෑම වේලක් යන තේරුම ඇති "ගොවිසෝ සමාදෙයිකා" කියා නැවත ස්තුති කරයි.

【4】 次のテーマの中から一つを選んで作文を書きなさい。 (30 点)

1. スリランカと日本のお正月<sup>まつ</sup>祭りを比べなさい。
2. スリランカの<sup>きょういく</sup>教育について。
3. 子どもにけいたい電話。